エナラプリルマレイン酸塩錠 2.5mg、5mg、10mg「フソー」生物学的同等性試験に関する資料

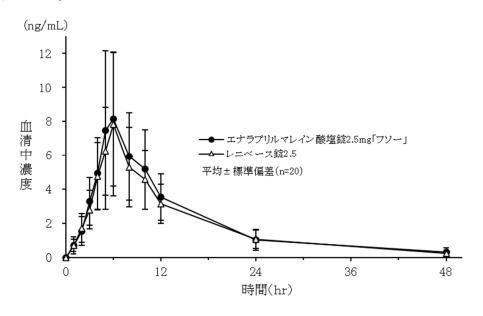
販 売 元:扶桑薬品工業株式会社

製造販売元:ダイト株式会社

エナラプリルマレイン酸塩錠 2.5mg、5mg、10mg「フソー」生物学的同等性試験に関する資料

(1) エナラプリルマレイン酸塩錠 2.5mg「フソー」

エナラプリルマレイン酸塩錠 $2.5 \,\mathrm{mg}$ 「フソー」とレニベース錠 2.5 を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠(エナラプリルマレイン酸塩として $2.5 \,\mathrm{mg}$)を健康成人男性に絶食時に単回経口投与して血清中活性代謝物ジアシド体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ($C \,\mathrm{max}$ 、AUC)について 90% 信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



	判定パラ	ラメータ	参考パラメータ		
製剤名	Cmax	AUC	tmax (hr)	$\mathrm{t}_{1/2}\left(\mathrm{hr} ight)$	
	(ng/mL)	(ng·hr/mL)	tmax (nr)	t1/2 (HF)	
エナラプリルマレイン酸塩		00.05140.59	0.011.0	10 0 9 9	
錠 2.5mg「フソー」	9.19±5.15	98.85±40.53	6.2±1.2	10.8±3.3	
レニベース錠 2.5	8.01±4.09	91.19±31.26	6.1±1.0	10.2±4.0	

(平均±標準偏差、n=20)

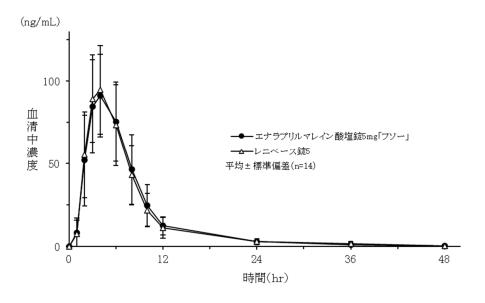
統計解析

パラメータ	Cmax	AUC ₀₋₄₈	判定基準	
90%信頼区間	1.004~1.223	$0.947 \sim 1.181$	$0.8 \sim 1.25$	

血清中濃度並びにCmax、AUC等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(2) エナラプリルマレイン酸塩錠 5mg「フソー」

エナラプリルマレイン酸塩錠 5mg「フソー」とレニベース錠 5 を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠(エナラプリルマレイン酸塩として 10mg)を健康成人男性に絶食時に単回経口投与して血清中活性代謝物ジアシド体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(Cmax、AUC)について分散分析にて統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。



	判定パラ	ラメータ	参考パラメータ		
製剤名	Cmax	AUC	t (1)	(1.)	
	(ng/mL)	$(ng \cdot hr/mL)$	tmax (hr)	$ m t_{1/2}(hr)$	
エナラプリルマレイン酸塩		710 71004 9	9.010.0	10.7110.4	
錠5mg「フソー」	92.79±24.61	710.7±224.3	3.9±0.8	10.7±12.4	
レニベース錠5	96.31±26.81	706.6±222.8	3.5 ± 0.5	12.8±13.4	

(平均生標準偏差、n=14)

統計解析

変動要因	分	判定基準		
发期安 囚	Cmax	AUC ₀₋₄₈	刊化基毕	
被験者間変動	12.830	8.349	2.131	
群又は持込効果	0.789	0.938	3.177	
被験者/群	13.041	8.389	2.147	
被験者内変動				
時 期	0.385	0.070	3.177	
薬 剤	0.900	0.011	3.177	
95%信頼区間	-10.5% \sim 3.2%	-9.3%~10.5%	-20%~20%	
最小検出差	0.116	0.168	≤ 0.200	
検出力	99.8%	91.6%	≧80%	
最小N数	4名	6名	≦7名	

血清中濃度並びにCmax、AUC等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の 試験条件によって異なる可能性がある。

(3) エナラプリルマレイン酸塩錠 10mg「フソー」

エナラプリルマレイン酸塩錠 10 mg「フソー」はエナラプリルマレイン酸塩錠 5 mg「フソー」と含量が異なる製剤として開発されたことから、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン(平成 12 年 2 月 14 日医薬審第 64 号、平成 18 年 11 月 24 日一部改正)」に基づき、溶出挙動を比較したところ同等と判断され、両剤は生物学的に同等とみなされた。

試験ガイドライン:「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン(平成

12年2月14日医薬審第64号、平成18年11月24日一部改正)」

試 験 方 法:溶出試験法第2法(パドル法)

標 準 製 剤:エナラプリルマレイン酸塩錠5mg「フソー」

試 験 液 量:900mL

試 験 液:pH1.2、pH3.0、pH6.8、水

回 転 数:50rpm、100rpm

1) 平均溶出率

同市 米/-	34年公元	加合性生	溶出率	医 (%)	和今井滩	判定
回転数	試験液	判定時点	標準製剤	試験製剤	判定基準	
50rpm	pH1.2	15 分	100.9	102.6	85%以上	適合
	pH3.0	15 分	101.8	102.5	85%以上	適合
	pH6.8	15 分	101.3	102.5	85%以上	適合
	水	15 分	99.7	102.8	85%以上	適合
100rpm	pH3.0	15 分	101.9	101.7	85%以上	適合

2) 個々の溶出率

				試験製剤(%)				
回転数 試験	試験液	、験液 判定時点	標準製剤 (%)	平均値	最大値	最大差		判定
					最小値			
	ъЦ1 9	I1.2 15分	100.9	102.6	106.0	3.4	±15%超が1個以下	適合
	p111.2				99.4		±25%超なし	
	pH3.0	15 分	101.8	102.5	105.5	3.0	±15%超が1個以下	適合
50rpm					99.6		±25%超なし	
	рН6 8	pH6.8 15 分	101.3	102.5	106.9	4.4	±15%超が1個以下	適合
	p110.0				99.7		±25%超なし	
	水	15 分	99.7	102.8	105.1	3.4	±15%超が1個以下	適合
					99.4		±25%超なし	旭口
100rpm	рН3.0	H3.0 15 分	101.9	101.7	103.1	2.9	±15%超が1個以下	適合
					98.8		±25%超なし	/년 디

